

▼INDEX▼

■【監査室 WEB 情報】
・「監査ニュース」　～大学などの研究費不正、47 機関で 5 億円　文科省調べ～　外 4 件
■【内部監査情報】
・文書管理に関する監査について
■【連載企画】
・H・直樹による内部監査の倍返し　「相談窓口をご存じですか？」
■【Audit Cafe】
・無謀な試み２

表題写真：三井アウトレットパーク 仙台港のイルミネーション

監 査 室 WEB 情 報

・「監査ニュース」　～大学などの研究費不正、47 機関で５億円　文科省調べ～　外 4 件

国公私立大学を通じた大学教育改革への支援業務に関する公募
大学などの研究費不正、47 機関で５億円　文科省調べ
群馬大、パワハラで教授を懲戒解雇　退職や休日出勤強要
金沢大学で放射性物質を紛失
予防接種は打ちましたか？（今冬のインフルエンザ総合対策について）



【監査ニュース】の詳細は、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/3-11index.html

内 部 監 査 情 報

・文書管理に関する監査について

１２月から「文書管理に関する監査」を実施いたします。
この監査は「国立大学法人東北大学文書管理規程」第６条に基づき、「法人文書」の管理状況を把握することを目的として、平成２４年度から実施しているものです。

本監査は３年サイクルで全部局を往査することとしており、今回で全部局の往査を終了することとなります。（来年度以降、新たなサイクルが始まる予定です。）



なお、部局の皆様の受検負担軽減の観点から単独の監査としては実施せず、昨年同様、「標準会計監査」と併せて実施することとしております。既に、対象部局には日程照会を行っておりますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

監査対象部局の皆様も、また監査の対象でない部局の皆様も、日頃から、大量の文書を処理されファイリングされていることとは思いますが、お時間のあるときに文書管理に関する各種規程等にお目通しされてはいかがでしょうか。

内部監査 H・直樹 内部監査の倍返し

「H・直樹による内部監査の倍返し」は、内部監査等において見受けられた事例等を取り上げて紹介する新コーナーで、これまでの「教えて成田くん！」や「How to 東山クン！」を発展的に引き継ぎ、一見些細なことながら、実は法令違反の可能性、会計検査院に指摘される恐れがあるもの等、大きなリスクを有している事例について迫る予定です。
第４回のテーマは**“相談窓口をご存じですか？”**と題してお送りします。どうぞ最後までお付き合いください。

このコーナーでは、本来、内部監査等において見受けられた事例等を取り上げて紹介していますが、今回はこれから監査を実施する予定の「ハラスメント」についてお話したいと思います。

「内部監査（ハラスメントの防止等に関する監査)」は、年明け１月に実施を予定しています。監査対象部局には既にお知らせしているところです。



ハラスメントに関する現用の規程「国立大学法人東北大学におけるハラスメントの防止等に関する規程」は、平成 18 年１月に規程改正により制定されたものです。さらに、同年 １ 月には、ハラスメントに関する相談、申し立て及び問題解決の手続きを定めた「ハラスメント問題解決のためのガイドライン」が制定されました。

前回の「ハラスメントの防止等に関する監査」は、上記の規程改正が行われてから半年後の平成 18 年 7 月に実施しました。
当時は、規程改正から間もないこともあり、改正時において、各部局の委員会等の性格が「審議組織」から「防止対策組織」に変わったことの趣旨がまだよく理解されておらず、多くの部局では、委員会等は「ハラスメントの事案が発生した場合に対応するために開催する」という認識でした。
現在では、各部局それぞれに、研究科長等を委員長とするハラスメント防止対策委員会が置かれ、部局独自、あるいは他部局との合同にて、ハラスメント防止に関するＦＤの開催や、新任教職員研修等におけるハラスメント防止に関する講義を実施するなど、様々な防止対策に取り組んでいる状況です。

ハラスメントの防止にあたっては、部局の取り組みも大事ですが、職員一人ひとりが、いつでもハラスメント問題の当事者になりうることを自覚し、お互いの人格的尊厳を守ることも大切です。
もし、今ハラスメントの問題に直面していなくても、これを機に是非本学の「ハラスメント防止対策」のホームページをご覧になられてはいかがでしょうか。



〇東北大学ハラスメント防止対策
http://www.bureau.tohoku.ac.jp/jinji/open/harassment/new_harassment/top/top.htm

また、本学のどこに、どのような相談窓口があるのかを確認してみるのも良いかもしれません。相談窓口は、全学の相談窓口として、川内北キャンパスには『全学学生相談窓口』

が、片平キャンパスには『全学職員相談窓口』がそれぞれ設置されています。また、各部局にはそれぞれ相談窓口があります。さらに、学外にも相談窓口が設置されており、委託専門機関のカウンセラーが電話や電子メールでの相談に応じてくれます。



相談する際は、これら相談窓口の中から利用しやすい相談窓口を選ぶことができます。
万一の時の対処方法を知ることにより、自分自身を守ることはもちろん、ハラスメントの被害で悩んでいる周りの方の力になれるかもしれません。

（H・直樹）

Audit Cafe

毎月、監査室のスタッフが交代で「つぶやく」このコーナー！
今回のつぶやきは、「無謀な試み２」と言うお題のようです。いったいどんな話になることやら・・・。



大阪で生まれ育ったこともあって、ずっと山や川といった自然に馴染みがなかったのですが、そういえば東北に来て一度も山に登ったことがないことに気付きました。
それどころか、人生を振り返っても登山をした経験はなく、小学校低学年のときに大阪と奈良の県境にある生駒山という小さな山の麓にハイキングに行ったきりでした。
一時期、職場の仲間内で「登山に行こう」なんて話もあったものの、何となく立ち消えてしまっていたのですが、ある日いつもの立ち飲み屋で一人酔っ払っていたこともあり、急に「登山に行きたい！」と思い立ちました。
思い立ったが吉日！と手当たり次第に友人に電話した結果、仲間がみなヒマなのか、単に私が強引なのか、その週末に栗駒山へ登山に行くことが決まりました。



自転車での山越えの一件以来（おうでぃっとめーる４８号参照）、**「無謀な計画はしない！」**と心に決めていた私は、仕事帰り登山ショップを巡り、装備を揃えよう・・・としたのですが、意外？にも結構**高い。**最低限代替できるものは、１００均で揃えることにして、週末を迎えました。

登山当日の早朝。片平北門前に集まった面々は、あれだけ「ちゃんと準備しろよ！」と言っていたのに長袖シャツとショルダーバッグで来たＺ務部のＫ君、登山経験者のＫ研究所のＮ君、仲むつまじいＲ研究所とＤ研究所のＯ夫妻、そして不要なまでに重装備となった私の計５名。

仙台から片道２時間半程度、栗駒山の登山口に到着し車を降りると、強い硫黄臭と、そしていきなり寒い（当日は確か８℃）状況でしたが、景色はまさに絶景。紅葉はピークでした。
「これが登山や！」と早速登山開始。道行く人と挨拶をしながら、山を登っていきます。
３０分ほど登ったところで、少し広場になっているところに出て、多くの人が休憩していましたので、我がチームもそこで休憩することにしました。

そこに、随分と軽装な小学生ぐらいの男の子が一人でいました。その男の子が、「お兄ちゃんが来た～」と話しかけてきたので、二言三言会話しました。一人でいるのが少し気になったのですが、「まあ保護者が近くにいるのだろう」と思い、バイバイと言って登山を再開しました。

しばらく登山を続けていたところ、先ほどの男の子が付いてきている様子でした。

なんだか様子がおかしいなと思い、「家族の人とどこで離れたの？」と声をかけたのですが、「教えない！」「登れるもん！」と山を登っていく始末。「危ないよ！」と追いかけるも少しも足を止めようとしません。



ようやく３０分ほどして、男の子が湖の前で休憩の提案に応じてくれたので、よくよく話を聞いたところ、「**今は自由時間だから大丈夫**だよ」とのこと。

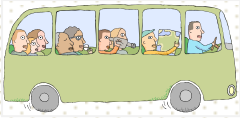
ん？自由時間って・・・？「しおりか何か持ってる？」と聞いたところ、鞄の中から所属団体の名が記載された当日のしおり（行程表）なるものを見せてくれたのですが、記載されたスケジュールによれば、既に帰りのバスの発車時間を過ぎている状況でした。

これはヤバイ・・・男の子が下山を了解してくれたこともあり、誘導を仲間にお願いし、私は子どもの名前と団体名を記録して、麓で待っていると思われる団体の元へ大急ぎで栗駒山を駆け下りました。

日頃走っているおかげもあってか、３０分ほどで最初の登山口に到着。運良くすぐに団体のバスを見つけられたので、担当者に男の子を保護し、今下山の誘導している旨を伝えました。

すると、「この山のガイドの方か何かですか？」と聞かれたので、「今日が人生初登山です！」と答えて（担当者は苦笑いしていました）、また仲間の元に走って戻りました。

程なく、下山を誘導してきた仲間・男の子と合流し、その後、無事に団体へ送り届けることができました。



こうして人生初の登山は、道半ばで断念することとなりました。

道中もほとんどトレイルラン状態で汗だくになり、買い込んだ登山道具は当日使うことなくただの重い荷物になっただけでしたが、でも、もし、あのとき男の子を助けなかったらどうなっていたのだろう、と今でも思い返します。

団体の担当者はたった２名で２０名を越える子供達を引率していたそうで、目を離した際にはぐれたとのことですが、子供達に持たせている“しおり”には担当者２名の緊急連絡先等の記載もなく、あまりに無謀な試みだったのではないかと思われます。

今回の一件、決して他人事とは思わず、自分もまた仕事においても無謀なことをしないよう、日々の業務に邁進していきたい所存です。



以来、登山にハマッた N 幹事

※写真は台風 19 号迫る嵐の深山頂上にて

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。
引き続き、「おうでぃっとめ～る」をどうぞよろしくお願い申し上げます。
バックナンバーは、監査室 WEB ページをご覧ください。

◆おうでぃっとめーるに関するお問い合わせやご意見、ご感想は下記までお寄せください。

【電話でのお問い合わせ】
東北大学監査室
０２２－２１７－４８７４（監査室長：金子）
０２２－２１７－５６８０，４８８０（平野、荒澤、菊地、西川）
【メールでのお問い合わせ】
東北大学監査室
kansa@bureau.tohoku.ac.jp

Copyright(C) Audit Office,Tohoku University . All rights reserved.
おうでぃっとめーるの無断転載を禁止します。